

ホコランタンが灯る、
特別な夜。

8月7日(金)

点灯 18:30~20:30

京都文教大学 実践社会学科

ホコランタン・プロジェクト 2026

in 宇治公園・塔の島《リトライ》

「京の七夕 in Uji」の初日にあわせ、学生みんなで手作りした70個のランタンで
宇治川の鵜飼 再興100周年を彩ります!

主催:京都文教大学 総合社会学部 実践社会学科 協力:公益社団法人 宇治市観光協会
問い合わせ先: k-tanimoto@po.kbu.ac.jp (担当: 谷本研)

実践社会学科公式instagram

イベント特設サイト

小雨決行。荒天および天ヶ瀬ダム放流による増水時には中止場合があります。
当日の開催有無については右記QRコードの特設サイトをご確認ください。



②鵜飼とは？ ～ 100 周年記念～

鵜飼とは、水鳥であるウミウを使って川魚を獲る、1300年以上前から日本に伝わる伝統漁法です。鵜の首に、絶妙な力加減で紐をくくことで、大きな魚だけを後から取り出すという先人の知識が詰まっています。現在日本では、長良川(岐阜県)や三隈川(大分県)など11ヶ所で鵜飼がおこなわれています。

宇治川の鵜飼の歴史は古く、平安時代にまで遡ります。貴族たちにも愛され、『蜻蛉日記』や『新古今和歌集』にもその幻想的な情景が描かれています。平安時代の後期には仏教の教えの影響を受け、平安貴族の衰微とともに宇治川の鵜飼も衰退していきました。時代の波とともに一度は途絶えてしまったその灯火ですが、大正15年(1926)に宇治の夏の風物詩として再興されました。そして今年、復活の年から数えてちょうど100周年という大きな節目を迎えます。宇治川では、全国的にも珍しい女性の鵜匠たちが第一線で活躍し、また国内で初めてウミウの人工ふ化に成功しています。

③谷本先生のプロジェクトの思い

もともとホコランタンは2010～12年に京都府亀岡市の田んぼや池を舞台にコラボレーションとして展開したアートプロジェクトでした。2025年、これを実践社会学科の学生達とともに復活させたいと思い立ち、昨年は学内のオープンキャンパスではじめて実施しました。そして今年、不思議な巡り合わせから宇治川の鵜飼再興100周年にあわせ、塔の島という素晴らしい場所で展開させていただく運びとなりました。宇治川が育んできた自然や、人々の営みなどに思いを馳せ、みなさんと一緒に素敵な時間を共有できることを願っています。

④実践社会学科はどんな学科？

京都文教大学の実践社会学科は、「実践的」に現場で学ぶことを大切にしている学科です。2024年度に新設され今年3年目になります。地域社会に実際に出て、企業や行政などと連携しながら課題解決に取り組むプロジェクトを通じ、社会で必要とされる実践力を身につけます。授業では「プロジェクト演習」「ラボスキル演習」「キャリアゼミ」を中心に、自分の強みや得意分野を発見し、それを伸ばしていくことができます。さらに、地域活性化や環境問題、まちづくりなど幅広いテーマに取り組みながら、企画力やコミュニケーション力、問題解決力を身につけることができます。

①ホコランタンとは？

ホコランタンとは、木材で作った小さな「ほころ」に、和紙と色紙によるランタンを宿す灯りです。京都文教大学実践社会学科の授業の一環として、学生みんなで制作しました。合計70個のホコランタンを「京の七夕 in Uji」の初日にあわせ、塔の島で点灯します。そして「宇治川の鵜飼再興100周年」を優しく幻想的な光で祝います。



日時：2026年 8月7日 (金) 点灯18:30～20:30

小雨決行。荒天および天ヶ瀬ダム放流による増水時には中止の場合あり。当日の開催有無については、おもて面QRコードの特設サイトをご確認ください。

主催：京都文教大学 総合社会学部 実践社会学科

協力：公益社団法人 宇治市観光協会

料金：塔の島への入場は無料 ※鵜飼船への乗船は有料

ホコランタンPJについての問い合わせ：k-tanimoto@po.kbu.ac.jp(担当：谷本)

「京の七夕 in Uji」および鵜飼については、宇治市観光協会のHPをご覧ください。

アクセス：京阪宇治線「宇治」駅下車、徒歩 10 分
JR奈良線「宇治」駅下車、徒歩 10 分

フライヤー作成：いおちゃ、ココロン、ソマreen、ハムたろう、みばあ(実践社会学科1年生)

